

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900623		
法人名	医療法人 恵心会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	旭川市錦町19丁目2166-149		
自己評価作成日	令和3年9月7日	評価結果市町村受理日	令和3年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/022/kani=true&amp;JigyosyoCd=0172900623-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/022/kani=true&amp;JigyosyoCd=0172900623-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人及び関連法人には老人保健施設・デイケア・ケアハウス・病院・グループホームがあり、それぞれと密に連携している。特に家庭医療専門の「北星ファミリークリニック」との密な連携により、看取りまでを柔軟に対応出来、御利用者、ご家族が安心できるサポート体制となっている。又、職員育成では人事課・各種研修・各委員会を通し、職員一人一人のモチベーション・や質を高めることに務めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は定員9名(1ユニット)のグループホームで、建物は病院を再利用した鉄筋コンクリート造の2階建てである。本通り南面に位置し、桜色を基調とした三色で塗り分けられ、壁面に大きな文字でホーム名が掲げられ、どこから見ても分かり易い建物である。衣・食・日用品等が揃っている道北で最大級の商業施設がある。また、近隣には散歩等で利用の大きな公園や郵便局・銀行・消防署・JR駅・バス停・学校(小中高)、更に足を延ばすと環状線や高速道路等もあり、交通や生活するには利便性の良い環境である。道路を挟んで関連のグループホームと老人保健施設やケアハウスが立ち並ぶ総合福祉施設となっている。近くには母体法人が運営する家庭医療を専門としたクリニックがあり、24時間体制の支援と定期的な往診があり、利用者や家族の安心に繋がっている。スタッフも明るく、家族や利用者の思いや意向等をしっかりと受け止めてケアに努めている。利用者、家族等の希望や意向を踏まえ、医師及び看護師と連携しながら重度化や終末期の医療体制と看取りのケア計画であるターミナルケアを実践している。また、各委員会(学習委員会、感染症予防委員会、事故防止委員会)が中心となって、認知症の基礎講座や虐待・身体拘束廃止、感染症予防対策等の内部研修会を開催してスキルアップに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念等が書かれてある小冊子を全職員に配布している。尚且つ朝礼で理念等の唱和を行い共有、日々の実践につなげている	理念の他に、利用者に寄り添った目配り・心配りの「つもり違い10か条」や「悩みの五訓」等の備忘録を朝礼時に唱和し、理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の折、交流はほとんど出来ていないが、町内会長には運営推進会議への書面参加や、グループホームの広報誌「めぐみ通信」の配布を行い、交流を図っている	町内会に加入する等して地域の行事等に参加をしていたが、コロナ禍のため交流が途絶えている。唯一、年4回の「めぐみ通信」配布と運営推進会議の書面会議録での意見交流がある。	新型コロナにより、地域住民との交流は自粛しているが、それが終息するまでの間は町内会会長に終息後の交流計画や事業所の現状報告を細やかに報告し、地域との接触を密にしていこうと期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に発信はしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面にての運営推進会議となっており、希望要望・ご意見等書いてもらえる様、質疑用紙を返送してもらっている	運営推進会議は年6回開催しているが、コロナ禍により書面会議で対応している。会議議事録と質疑用紙を添付し各委員に発送し、意見や要望を得て運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の指導監査課には、疑問質問等で話をさせてもらっている他、運営推進会議に福祉部の方を招いている(今年度は書面会議)	市役所介護保険課には更新手続きや生活保護手続き等で助言を得ており、指導監査課では運営上の問題でアドバイスを頂く等協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の手引きを活用して、適時話し合いをしている。又、玄関は夜間のみ施錠している	厚生労働省の「身体拘束ゼロへの手引き」を参考に身体拘束廃止委員会を年6回、同委員会での研修を年3回実施する等して知識を深め、職員全員が正しく理解している。また、防犯等不測の事態に備えて玄関施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての話し合いをスタッフミーティング毎に話し合っている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティング等で理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間は掛かるが十分な説明を行い、質疑にもしっかりと理解してもらえるように関わっている。又、介護報酬改定時には、書面にてわかりやすく説明して納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他、運営推進会議書面でも意見が言えるような機会を設けている	玄関には意見箱の設置と、苦情相談受付窓口を掲示している。利用者からは日常の会話や生活の中で、家族等からは電話や手紙などで意見や要望を得る様努めている。出された意見や要望は会議で話し合い、ケアの提供を共有化している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフミーティング時の話し合いの他、年二回の人事考課の際も、一方的にならないように聞く姿勢で関わっている	月1回のスタッフミーティングにおいて、職員の要望や意見を聴き、話し合える機会を設け、サービスの向上を図っている。職員個々の「仕事の振り返りシート」を通して、4月と10月の人事考課で要望や提案・改善点等を協議し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが目標を設定出来る機会を作ると共に、職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は行っていないが、内部研修はほぼ毎月行っており、個々のスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	活発には活動していないが、地域包括支援センターを中心として、同業者のネットワークを作り、サービスの向上を目指している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談にて、ご本人の性格・嗜好やご家族との関係性等を基本情報として職員間で共有。日々の係わりの中で、ご本人が自分の居場所と思ってもらえる環境を作れるように務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との入居前面談で、要望や困っていること不安なことを把握し、入居後は生活状況をご報告しながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントから状況を把握し、最も必要と考えられる支援を見極められるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存能力を把握し、なじみの関係を作り、御自分で出来る範囲のお手伝い等をしてもらえるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に丸なげにならない様に、ご本人とご家族の絆を意識しつつ、様々な事象で相談・支援してもらえるような関係を構築して行けるように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の折、関係性が希薄になってきている。支援方法を模索中	コロナ禍の為に、馴染みの店に行くことや友人・知人等の面会は自粛しているが、出来るだけ電話により関係継続ができるよう支援したり継続が続くような支援方法を模索している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が孤立しないように、時には職員が橋渡し役になり関わっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に立ち寄れる様、声かけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望等を普段の何気ない係わりから察知できるように務めている	日々の関わりや利用者の行動、また、家族からの意向を把握するよう努めており、把握した意向は職員間で記録や会議で検討し、今後にかかすように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から昔の話を伺い、どんな生活をしてきたのかを把握するように務めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの過ごし方・心身状態を見極め、日々の生活状況を職員間で共有しながら、現状の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人担当ご利用者を持ち、モニタリングをする。そして、介護計画を作成。職員間でも話し合い、ご家族に確認してもらい意見等反映しながら進めている	利用者と家族の意見や要望を基に、月1回モニタリングを行い、4ヶ月毎に介護計画を作成し、家族に説明して確認印を得ている。また、利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランは職員がいつでも確認できる場所に有る。又、個別記録に様子等を記載、主にそれぞれのご利用者様の担当者が主体となり、様々な実践を行っている。連絡帳等利用しながら職員間の共有を行っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズを把握し、出来る範囲で柔軟な活動を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時々々のニーズに合わせ、近所の神社への参拝やバーベキューなどを実施している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連絡や相談を随時行い往診・受診が適切に受けられるよう支援している	母体法人が運営する24時間対応の家庭医療専門のクリニックと利用者・家族が入所時に契約を行い、入所後のかかりつけ医としている。医師は月2回往診、看護師も月2回来訪して健康管理の支援をしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の体制を整え、ご利用者の日頃の状態や気になること等を相談し、助言を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	北星ファミリークリニックを通じて医療機関との連携を図っている他、入退院時には各医療機関のソーシャルワーカーとの連絡を密に行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の指針」等を活用しご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医等と連携を図りながら面談を行い、看取りケア計画を作成する	入居時に利用者と家族に「重度化した場合の指針」を説明し同意を得ている。看護師や協力医療機関とは24時間連携できる体制が整っており、重度化した際は、随時家族と話し合い、その都度状態に合わせて「看取り計画書」を作成し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや各種委員会研修等で、技術や情報の共有を図れる様に務めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練実施の他、近隣の老健からの協力を得られるような体制を構築している	運営推進会議に合わせ9月は日中を想定、12月は夜間を想定した防災訓練を系列の老健施設の協力を得て実施していたがコロナ禍のため、本年は事業所のみで行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者個々の尊厳やプライバシーに配慮した声かけやケアを行っている	利用者それぞれに合わせて、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に心がけている。個人情報保護に関する同意書があり、書類事務室の棚に、適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を尊重し、自己決定出来るよう声掛け等行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活での可能な範囲で、ご利用者一人ひとりの生活ペースに合わせる様、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの服装等が出来る様係わっている。又、訪問理美容サービスを利用し、整髪等ご利用者の希望に添えるようにしている		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはおつゆを注いでもらったり、テーブルを拭いてもらったりしている	業者から食材を購入し、職員が調理をしている。テーブルを拭いたり、味噌汁を注ぐ等利用者個々の力量に任せている。誕生会にはケーキやプレゼントが用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量表を用いて摂取量を把握すると共に、状態によりゼリー等で水分補給してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援を、そのご利用者の状態に応じた方法で行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄出来る様支援している	排泄チェック表等から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導して出来るだけトイレでの自立排泄を促している。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活・水分摂取・運動などに気を配り、便秘の予防をしている。便秘時には協力医療機関と連携を図り、指示を仰いでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、一人一人の希望やタイミングに合わせた支援をしている	週2回(火及び金曜日)の入浴を基本としているが、入浴が苦手な利用者にはタイミングを含め柔軟に対応している。脱衣所からスロープで入浴ができるようになっていたため、車椅子の利用者にも容易に入浴が楽しめるので容易に介助できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や音・明るさ等に配慮し良眠出来る様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも確認出来る場所に保管している他、薬の変更等があった場合は連絡帳で周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月何らかの行事を行っている他、誕生会はまとめてではなく、誕生日その日にそれぞれの誕生会を開いている。又、役割として施設のウエスト等を作る作業を手伝ってもらっている		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の折、希望に添った外出は出来ていないが、時間の許す限り散歩には出ている	コロナ禍により外出支援は自粛しているが、ドライブで車窓から神社等を巡ったりしながら外気や気分転換を図りながら支援している。また、事業所周辺や近くの公園等への散歩は、利用者の状況等に合わせながら外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力・了解を得ながらお金の所持は支援しているが、買い物には出かけられていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご本人の希望・要望があれば可能		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには毎月季節に添った飾り物をしている。共有箇所に温度計を置き、可能な限り温度調整している	病院を再利用しているため、玄関ロビーは広く明るく、ロビーにはソファや絵画等が飾られている。共用の居間は採光も良く室温・湿度も快適に保たれ、壁には紅葉の飾り物や利用者の顔写真入りの工作物が飾られ、来訪者等を温かく迎え入れる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファがあり御利用者同士で談話されている。又、ホールにはテレビがあり夜中以外は自由に視聴可能。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、なじみの物を置いたり、冷蔵庫やテレビ等居心地よく過ごせるよう配置している	居室には温水パネルとクローゼットが設置されている。室内は使い慣れた家具や冷蔵庫、テレビ等を持ち込み、馴染みの物や家族の写真等が飾られるなど、自宅にいる様な居心地良く暮らせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室前にのれん等を付け、自室をわかりやすくする。歩行不安定なご利用者の居室内に椅子等を配置し導線を確認。自力歩行の支援としている		